

エシカルジュエリーを選ぶ意味

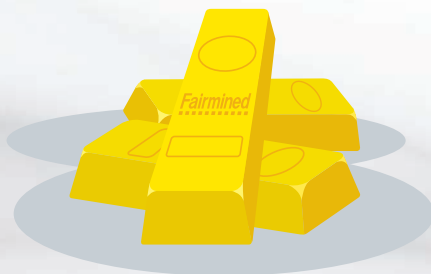
宝飾店のウィンドウを眺めながら、「このジュエリーはどのようにしてここまで来たのか」と考える人はほとんどいないだろう。実際、宝石や貴金属の素性について、我々はほとんど知識を持ち合わせていない。例えば、鉱山で労働者が低賃金で強制的に働かされていたり、原石が密売ルートで流通されていたり、仲介業者が法外なマージンを上乗せしていたり……いろいろな歴史をたどってその石が手元に届いていたとしても、我々はそのような話を知ることはできないし、たとえ鑑定士であっても分からないだろう。さらに、宝石や貴金属の取引による利益が武装勢力の資金源になっているという実態もある。（紛争ダイヤモンドについては、2006年に「ブラッドダイヤモンド」という映画になったので、ご存じの方もいるかもしれない。）

●金の中の見えない水銀汚染

金については、こうした労働搾取や密貿易などに加えて、製錬で使われる水銀のヒト健康および環境への影響も指摘されている。水銀が他の金属とアマルガムという混合物（合金）を作る性質は、現象的には水銀という液体に、金属が溶けていくと見ることができる。金鉱石に水銀を混ぜると、鉱石の中の金が溶け出し水銀とアマルガムを作り、その金アマルガムを火であぶって水銀を蒸発させることにより金を精製する。現在、世界最大の水銀用途は、こうした小規模な金の採掘・製錬における使用であり、この方法によって、大量の水銀蒸気が放出されることになる。

●エシカルな金へ業界が動いた

このような状況を踏まえ、宝飾業界や鉱山会社などは、フェアトレードに関する自主的取り組みとして「ARM」（Alliance for Responsible Mining）という団体を結成し、貴金属の小規模採掘に対する支援に乗り出した。ARMは、小規模な採掘事業者の社会開発や環境配慮の取り組みを審査する「Fairmined基準」を設定し



て、採掘事業者の認証を行っている。認証を受けた金は、それがフェアトレードの基準に合致したものであることを保証する刻印などが印され、カンヌ映画祭のパルムドールやノーベル賞の金メダルなどに使用されている。

Fairmined認証を受けた金を宝飾品に使う場合は、その分のプレミアムが上乗せされるため、当然割高になっている。金の価格は、宝飾品の製造原価の大きな割合を占めているため、このプレミアム分は宝飾品の販売価格にも上乗せされる。これがいわゆる「エシカルジュエリー」と呼ばれるもので、この価格差は、その宝飾品が持つ物語（どのようにしてここまで来たのか）に対するプレミアムである。このビジネスモデルは、消費者がこうしたしゅみを認識することによってはじめて成立する。つまり、エシカルジュエリーについて知り理解することによって、プレミアムを支払ってもかまわないという価値を見出し、あえて割高な価格で購入を決める。そして、このときのプレミアム分が、やがて小規模採掘現場での水銀対策の原資となる。

Fairmined認証の金の流通量はわずかだが、消費者側でもエシカルな金を求める動きが進んでいる。世界の現物地金取引において中心的なロンドンの市場、そこに参加する専門業者の組合である「ロンドン貴金属市場協会」は、金のサプライチェーンに関するガイダンスを策定し、金の取引において「水銀が適切に管理されているか」を考慮するよう求めている。日本で流通する金の大部分はこの協会の認証を受けた会社が製造販売したもので、ガイダンスに遵守した定期的な監査を受けている。

●エシカルは自分自身への表彰

パルムドールやノーベル賞は望んでも簡単に手に入れられるものではないが、エシカルジュエリーであれば、自分たちのより身近な機会、例えば婚約指輪にエシカルな金を、という形で求めることができる。自らの健康と地球環境を守る一つの選択肢として、エシカルジュエリーは存在する。